プロダクトデザイン・クラフトデザインと日本近代デザイン史の研究

関連するSDGsの国際目標

人間文化学部　生活デザイン学科　　講師　　星野　祥子
研究分野：プロダクトデザイン、クラフトデザイン、
日本近代デザイン史

ユーザの快適で情緒的な満足を提供するため、形・色・素材による造形表現を重視したデザイン開発を行なっています。また、日本の近代工芸デザイン史を調査することで、時代の変化に合わせたデザインプロセスを探っています。

■プロダクトデザイン・クラフトデザイン









左：Moon Catcher（星野祥子・作品）2020年
右上：よりそいカップ※（株式会社象彦）2015年
右下：花寄せ銘々皿カラーリング※（株式会社象彦）2014年
※知的財産権は株式会社象彦が所有

■日本近代工芸デザイン史

明治・大正・昭和初期にかけての京都の漆工芸界を研究しています。明治維新により西洋化が進み、美術や工芸という日本語が登場し、やがて工業デザインが誕生していきますが、漆工芸産業は、陶磁器や織物といった工芸と並び、当時の国の重要な殖産興業策の一つでした。美術・工芸・工業デザインが分岐していく時代を詳しく調査することにより、時代の変化に合わせてどのようにデザインを行なっていったらよいかを探っています。